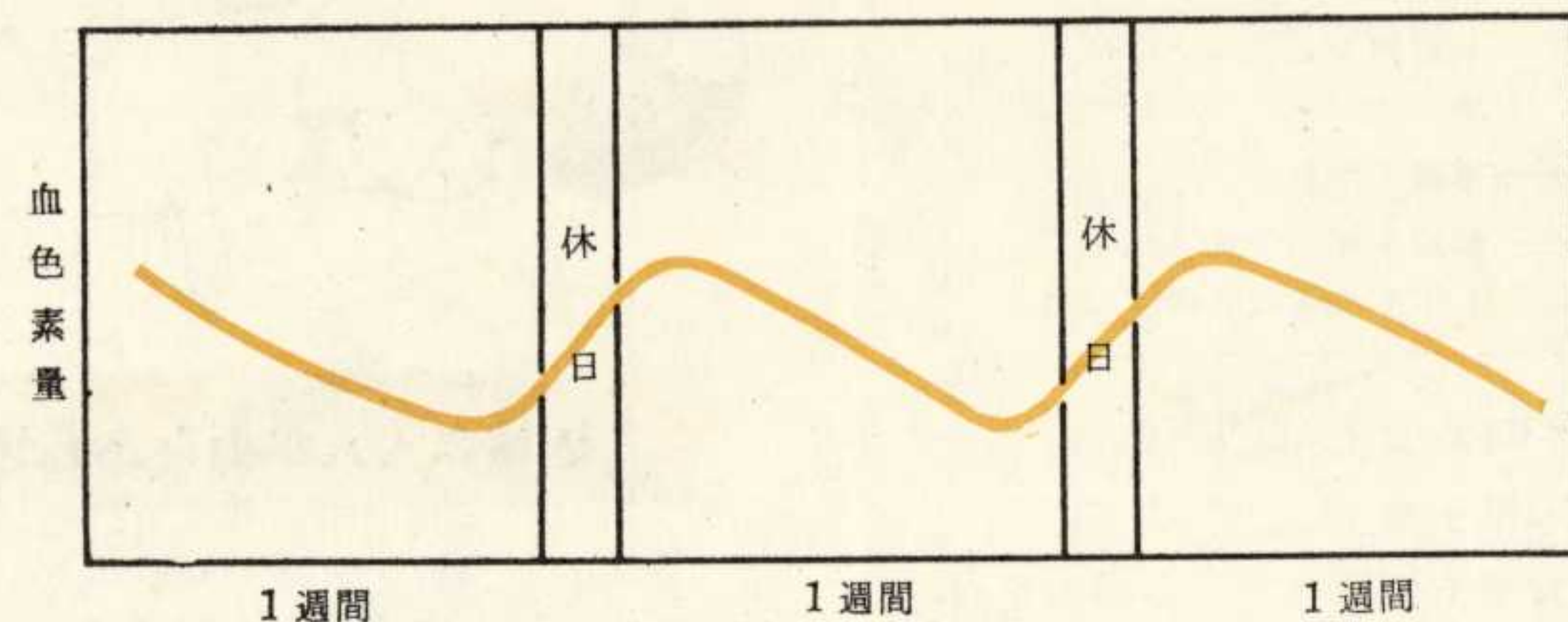


レクリエーション—いこい楽しむことは

たべたり 眠つたりするのとおなじように
私たちの毎日の生活に必要なことです

このグラフをごらんください



このグラフは紡績に働く婦人の1週間の疲労を血色素量の増減であらわしたものです。作業日がかさなつて疲れてくると、だんだんに血色素量がへり(貧血する)、休日によつて、もとどおりに回復していることがわかります。もし休日がなかつたらどうでしょう。疲れがつもつてげんきに働けなくなり、ついには病気で倒れてしまうでしょう。1日中休みなしに働くことにも、おなじようなことがいわれます。いちばんよいことはその日の疲れがその日のうちに回復されて、つぎの日までもちこされないことで、ここに日日のレクリエーションのたいせつな意味があるのです。

このように 私たちは 働いたあとの休息によつて疲れをなおし
音楽をきくとか 適度の運動をするとか なにかを楽しむことによつて
さわやかな気分と 新しい力をとりもどして
また明日もげんきに働けるようになります

働く婦人についてのメモ

働く婦人の数

現在全国には 600 万人の婦人が雇用労働についています。これはわが国の雇用労働力の3割にあたります。

わが国には中小企業の数が多いので、働く婦人の6割は中小企業で働いています。繊維産業等の中小企業地のなかには、ほとんど婦人の労働力でささえられているところが少なくありません。

結婚の状態

働く婦人のうち6割5分は未婚者、2割が夫のいる人、1割5分が夫と死離別した人です。

とりわけ中小企業は一般に既婚者の割合がたかく、中小企業地のなかには、家庭をもつた地元の主婦たちが労働力の中心になっているところが数多くみられます。

住込の婦人

住込労働者は小企業になるほど多く、労働者1~4人の事業場では働く婦人の6割、5~29人の事業場では働く婦人の2割が住込みで働いています。

賃金

働く婦人の賃金は昭和32年平均 10,638円です。(賞与や税金も含む。規模30人以上) 小企業ほど賃金も低く、たとえば30~99人の事業場の婦人の賃金は、500人以上の事業場の婦人の約7割です。

しかし婦人全体としてみたばあい、その平均賃金は男子の約4割という水準にとどまっています。

働く婦人と レクリエーション

——よりよい労働と生活のために——



労働省婦人少年局

1958年9月

リーフレット No. 69

働く婦人の生活をみますと

- ◇ 家にかえつてからも
家事や育児におわれて ひまがない
- ◇ レクリエーションをする機会や場所がない
- ◇ 休んだり 楽しんだりする習慣がないので
レクリエーションなど考えたことがない
- ◇ 女が遊ぶことはよくないことと思われている

こんなことのために 生活のなかの
休息や娯楽が 男子にくらべて
ひじょうに少くなっています



よいレクリエーションは

おたがいの親しみをふかめ

私たちの人間性をゆたかにし

社会を向上させます

働く婦人は

- ◇ まず生活の全体をみなおしましょう

ひとりで解決できないことは、ともだち
と、また使用者、労働組合、家族、地域
の人人と、はなしあってみましょう。

- ◇ 毎日の生活のなかにも
つといていや楽しみをもちましょう

あなたの仕事や生活に適したレクリエー
ションを工夫しましょう。

職場や地域にあるレクリエーションの施
設やグループ活動を、すすんで利用しま
しょう。

使用者は

- ◇ 働く人の休息に心をくばりましょう

労働基準法は働く人の休息のため
こんなことをきめています。

労働時間——1日8時間、1週48時間

休憩——6時間をこえるとき45分
以上
8時間をこえるとき1時
間以上

休日——毎週1回以上

年次有給休暇——勤続1年以上の人に6日
1年をますごとに1日追加

- ◇ 職場施設をととのえましょう

休息のための椅子や
おちついて食事や休憩のできる場所を設
けましょう。
働く婦人の希望や意見もよくきいてみま
しょう。

- ◇ 住込みの婦人のためには

くつろげる居室
自由な余暇時間
そして職場と生活の気分のきりかえがで
きるように。

家庭では

- ◇ 家庭は 家族のみんなにいていの場
であるように たすけあいましょう



男だけの娯楽やつきあい
女はサービス専門
これでは
あかるい家庭はのぞめま
せん。

地域の人人が力をあわせて

- ◇ みんなが利用できるレクリエーション
の機会と施設をつくりましょう
- ◇ 地域の福祉やレクリエーションの施設
を働く婦人に利用しやすくしましょう

福祉センター

夜間、休日もつかえる
託児所、共同洗濯所、調理場
食堂、図書室、談話室、娯楽設備